

きいちゃんの いきいき支え合い通信

この通信では、地域の「顔が見える」関係の中で、日常生活の困りごとを助け合い、支え合う活動が進むことを願い、生活支援に関する県内の先進事例等を発信していきます。



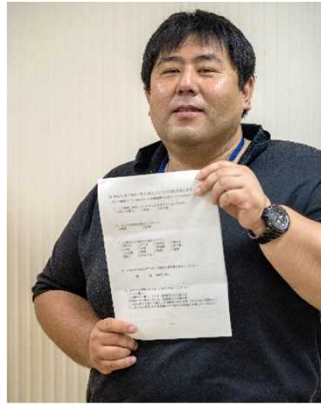
第12号

令和4年12月
和歌山県
長寿社会課

支え合い事例紹介 太地町 「インフォーマルサービス」

太地町では、町社会福祉協議会が有償ボランティア制度「インフォーマルサービス」を平成14年度から実施しています。

今回、このサービスを長期間継続して実施している現状や課題について、生活支援コーディネーターの植本さんと、町社会福祉協議会の漁野さん、脊古さんにお話を伺いました。



生活支援コーディネーター
植本さん

サービス立ち上げの経緯と現状

平成14年度当時、特に草刈りに困っているという地域の声を受け、住民が相互に助け合う仕組みを立ち上げられないかと検討した結果、このサービスの創出に至ったということです。提供会員が一番多い時で26名いましたが現在は7名で、年間の利用は約70件となっています。草刈り、墓掃除、家の片づけでの利用が多いとのこと。



太地町社協
脊古さん 漁野さん

サービスを続ける狙い

現状の利用実績としては少なく感じますが、実は、このサービスを利用していた方同士が、事務局（町社協）を通さずに直接お互いがやりとりをして合っている事例が複数あるとのこと。

漁野さんによると、この「インフォーマルサービス」が住民同士のつながりづくりのきっかけになっていることは良いことであり、狙いの一つでもあるそうです。

また、以前提供会員だった方が「インフォーマルサービス」では対象とされていない少し専門的な事業を独自で新たに始めるという事例もあり、新たなサービスの創出にもつながっているとのこと。

実際の利用以外にも様々な面で良い効果を生み出しており、長くサービスを続けていくことに意味がありそうです。

ココがすごい！

提供会員の声

提供会員になって10年の杉坂さんは、「社協にお世話になったので恩返しをしたいという気持ち」でこのサービスに参加したそうです。太田さんと西さんは杉坂さんに誘われて参加し、いつも一緒に作業されています。



杉坂さん

課題

杉坂さんによると、一時は草刈りができる提供会員が杉坂さん一人だけになったこともあるそうで、提供会員不足を課題として挙げられていました。また、自らの道具を使って作業をしているため、その道具が破損した場合や自身が怪我をした場合の保険制度をどうするか等、改善点を考えていらっしゃいました。

やりがい

やりがいは、汗を流して作業をすることでストレス解消となり、作業後のご飯やお酒が美味しいこと。それが人の役に立っていることだそうです。また、自分の体調に合わせて日程調整できるところも長く続けられる良い点とのこと。



太田さん



西さん

利用会員の声

このサービスを継続して利用している方について、清水さんにお話を伺いました。高齢で一人暮らしをしていた清水さんのお母さんが、以前より墓掃除や草刈りでサービスを利用していました。お墓は山手にあり登るのが大変なため、とても助かっているそうです。

清水さんは、提供会員の方に街で出会った時はいつも声掛けをしてお礼を言い、交流されているとのこと。世代を超えたつながりのきっかけにもなっていました。



清水さん



新たな移動支援の方法

移動支援については、和歌山県内の多くの地域で課題となっています。対策としては、コミュニティバスの運行やタクシーチケットの配布、地域の方々での乗り合い促進、ボランティアサービスの創出等を検討することが多いですが、今回、新たな移動支援として実施する「自動運転サービス」を取材しました。

「自動運転サービス」

太地町では町内一部の地域において、自動運転の車両が地域を走行し、誰でも無料で自由に乗り降りできるサービスを令和4年11月1日から開始しました。

自動運転車両

対象地域の道路には電磁誘導線が埋め込まれており、その線に沿って車両が自動で走行します。もし走行ルートに障害物等がある場合は自動停止する仕組みです。太地町内でも特に住宅が密集していて道路が細い地域を走行ルートとしており、約30分で1周まわります。

補助員が1名同乗しています

車両は自動運転で走行しますが、緊急時の対応や乗客の乗降の手伝いのために補助員が1名乗っています。

補助員として同乗しているのは、栗原さんです。栗原さんに、今回この補助員をしてみてもう感じたか伺ったところ、「はじめは単なる仕事としてやりはじめたが、高齢の方に喜んでもらえるのが嬉しくてやりがいになっています。」とのことでした。

栗原さんは、いつも同じ時間に利用する方を把握しており、その方が来れないと、あれ？と思うそうです。また、走行ルート上にある民家の新聞受けの状況や、空き家の状態を見回り、何かあると役場に報告されており、乗り降りの補助員だけではない活躍をされていました。



自動運転車両



栗原さん



走行ルート

サービス開始まで

「自動運転サービス」の担当は総務課の和田さんです。太地町というコンパクトな町だからこそ実現できたのかと思っていましたが、太地町でも全域を走行するわけではなく、限られた地域のみでの走行となっています。

走行ルートの設定

走行ルートの設定は、住民の方からの意見を考慮し、地域包括支援センター等の他部署とも意見交換しながら設定されました。

利用者も様々な方がいるため、それぞれの事情に合わせたより良いサービスになるよう、引き続き関係部署とも連携して、地域の方々の声を拾っていき、とのことでした。



和田さん

「自動運転サービス」を利用して

実際に自動運転サービスを利用した奥村さんにお話を伺いました。奥村さんは病院に行く際、今までは自宅から歩いてバス停まで行き、バスで通院していました。しかし、夏はそのバス停まで歩く間がとても暑く辛かったそうです。この自動運転サービスは自宅のすぐそばを通過してくれるためすぐに乗れて、しかも自動運転車両はバスよりも低床なため乗り降りがしやすいので助かっているそうです。



奥村さん

補助員との交流

また、奥村さんは、補助員の栗原さんと話ができるのが楽しみだそうです。「乗り降りも手伝ってくれるし、ほんまに良い人」と信頼していました。

県からのお知らせ

- 県では「生活支援専門アドバイザー派遣事業」を実施しています。是非ご活用をお願いします。
- 皆様の取り組みを紹介させていただきます。県職員が取材に伺いますので下記までご連絡をお願いします。

連絡先：和歌山県長寿社会課 電話：073-441-2521